

平成27年度 第1回江田島市公共交通協議会（平成27年5月13日）

協議会 議事 要点 録				
会議名	平成27年度 第1回江田島市公共交通協議会			
日時	平成27年5月13日（水）14時～15時28分			
場所	江田島市役所 2階会議室			
傍聴者	7名			
出席者	県立広島大学	名誉教授	のほら けんいち 野原 建一	○
	広島商船高等専門学校	教授	おかやま まさと 岡山 正人	○
	江田島バス株式会社	代表取締役	はすだ つとむ 蓮田 勉	○
	江田島バス株式会社	従業員代表	すぎい くみお 杉井 公美雄	○
	広島県旅客船協会	会長	にった いちろう 仁田 一郎	○
	瀬戸内シーライン株式会社	船員代表	たにぐち みのる 谷口 実	○
	広島県タクシー協会江能支部	支部長	いまみや こうじ 今宮 浩二	○
	江田島市自治会連合会	会長	はまなか しげみ 濱中 繁美	×
	江田島市老人クラブ連合会	会長	ふるもと さねき 古本 眞機	○
	江田島市社会福祉協議会	会長	なかむら ひろまさ 中村 博政	○
	江田島市女性会連合会	会長	しもだ とよこ 下田 豊子	○
	江田島市観光協会	会長	いとう ふみお 伊藤 富美雄	○
	中国運輸局海事振興部旅客課	課長	ひらお よしひろ 平尾 嘉宏	○
	中国運輸局広島運輸支局	首席運輸企画専門官	ひらが てつじ 平賀 哲二	代理出席 宮地 亮平
	広島県地域政策局地域力創造課	課長	きむら ひろし 木村 洋	代理出席 藤田 順子
	江田島警察署	地域交通課長	こにし まさき 小西 正記	○
	江田島市	副市長	どて さんせい 土手 三生	○
江田島市	企画部長	しまづ しんじ 島津 慎二	○	
江田島市	土木建築部長	きむら なりひろ 木村 成弘	○	

1 開会	
事務局	開会宣言
2 会長あいさつ	
会長	土手会長あいさつ
3 議長の選任について	
各委員	野原委員を平成27年度の議長に選任
4 協議	
(1) 報告事項	
① 中町／宇品航路の指定管理者制度移行について	
事務局	－資料1により説明－
議長	ただいま、事務局から報告がありました。 本件について、ご質問及びご意見などはございませんか。
委員	3頁の「これまでの経緯と今後の予定について」ですね、一番下に「上記以外に市船員の処遇に関する協議を継続的に実施」するとあります。中町／宇品航路の24便を維持するとなれば、12名の船員が要ると思います。現在、12名の船員でやっていますが、3労2休でやっていけばギリギリの人数だと思えます。現段階で、何人の船員がシーラインで船員を続けるか、それとも市役所へ異動するつもりなのか。どの程度話が進んでいるのか、そこら辺りをちょっと聞いてみたいんですが。
議長	それでは事務局、お願いいたします。
事務局	今、お問い合わせいただいた点は、実際のところ、船員さんは市役所に残られるのか、それとも新しい指定管理者の方へ異動されるのかということです。検討に当たっては、勤務労働条件がどうなるのか、もし、市を退職されて他へ移られるとしたら退職金がどうなるのかを、組合と一緒に協力を進めている段階でございます。実際のところ、何名が異動されるのかということですが、その辺りは諸条件を見て、船員さんの方で色々と考えておられる段階なので、人数は出ていない段階であります。
委員	分かりました。組合との話もあるので、なかなか難しく、すぐには出来ないと思います。これは私の極端な考えですが、例えば12名全員がシーラインで船員を続けるという答えが出た時には、市役所の方は痛くも痒くもないと思います。しかし、その反対の答えが出た場合には、シーラインの方は12名の船員を集めなくてはならない。シーラインの方が、これだけの予備船員を確保できればいいんですけども、なかなかそのようにはならないと思います。そこら辺りは私の方では分かりませんが、例えば半分の6名がシーラインの方に残るとなったら、「6人位の予備はいますよ」ということになればいいんですが。いなければ6人の船員を確保するという問題が出てきますので、この話はやはり早く詰めて、船員の用意もいると思いますので、色々難しい面はあると思いますが、私としてはそのように思っております。

議 長	事務局の方でも対応を十分していただくようお願いしたいと思います。
事務局	<p>いずれにしましても、船員の方に身の振りというものを決めていただかないといけません。船員さん自身も不安定な状況にありますので、組合との交渉というのは当然やっていくんですけれども、ギリギリになってやっていくということではなく、早目に決めていただけるように進めていこうと思っております。また、もしも、船員さんが、市役所の方に結構残られた場合であっても、指定管理者さんの方で色々OB船員さんなどで手当てできるということで、選定の際におっしゃっていただいておりますので、いずれにせよ、運航に穴が開くことがないように船員の確保を図って参ります。</p>
委 員	はい、分かりました。
委 員	<p>まだ十分に理解できていないのですが、公設民営化に決定されて、どこの部分に市がどれだけ関わり、民営化というものが、どのような形なのかということをお教えください。1点目です。</p> <p>今になってのことなんです。審査基準の中で、「10地域への貢献」が5点ということで、本当は地域の足なのでここが一番大切で、あまりにも配点が少ないような気がします。済んだことなので申し訳ないんですが、そのように思いました。「何のための船なのか」ということで考えた時に、「住民の足」ということであって、私は能美に住んでおり、一番身近に感じている訳です。その点について疑問を持ちました。</p> <p>それから、このように決まって、今後、具体的に、船員さんの人数のお話とか色々あるようですが、実際に10月には、瀬戸内シーライン株式会社の方にお渡しになるわけで、この瀬戸内シーラインさんがどのような方なのかということをお聞きしたいと思っておりますし、今後どのような経営方針を持っておられるのかが気になります。</p>
議 長	3点質問があったと思いますが、事務局で答えられる部分を回答していただき、今日は瀬戸内シーラインさんもお越しいただいておりますので、お答えいただければと思います。まずは事務局の方をお願いしたいと思います。
事務局	<p>最初にご質問いただいた公設民営化の市の関わりについてです。まず、原則的に、中町／宇品航路を走っていた船は市が所有しているものです。市が所有している船を使って、民間で運航していただくこととなります。また、市の船を使っていただくに当たって、条例で便数とか料金などを定めております。そういった部分で市の関与がありながら、それ以外の部分は民間の方で創意工夫をしながら自由にやっていただく中で、収入やサービスの向上を図っていくというもので、公と民で役割を分担しながらやっていくということで、公設民営化というふうに呼んでおります。</p> <p>次に「地域貢献」の配点が低いという点についてですが、この審査基準については、交通事業の専門機関で岡山県にある地域公共交通総合研究所というところがございまして、そちらの専門機関の方で考えていただいて、審査基準を定めているところです。配点が高いところはどのようなところかといいますと、資料の1</p>

平成27年度 第1回江田島市公共交通協議会（平成27年5月13日）

事務局 (つづき)	<p>頁の「3 運航計画」が10点あります。また、「4 要員計画と確保力」が20点。また2頁目の「6 事業収支計画」が20点ということで、適切に今後5年間の運航を確保していただくという点について配点が厚くなっております。「地域への貢献」については、それに加えてできることがあればやってくださいという位置付けで、このような配点になっております。まずは、航路を維持、守っていくということで配点が大きくなっているということでご理解いただければと思います。</p>
オブザーバー 瀬戸内シーライン(株)	<p>瀬戸内シーラインでございます。先程承りました「瀬戸内シーラインがどのような会社か」ということでございますが、主に江田島市の東側の航路を運航しております。宇品／小用間、宇品／切串間、それから呉／小用間のフェリー並びに高速船を運航しております。瀬戸内シーラインという名前になったのは、3年程前なんです。それ以前はファーストビーチという名前で運航しておりました。これは社名を変更しただけであります。それ以前は、瀬戸内海汽船グループに関係ありますが、江能汽船という会社がございます。総合しますと数十年にわたって東側の航路を運航しているという会社でございます。</p> <p>それから経営方針のお話がありましたけれども、皆様ご心配されていますけれども、まず航路を維持するというのが大前提でございます。今回も現行の便数、1日24便を維持する。それから現行の料金を維持するというのが大前提で、この指定管理者を引き受けさせていただきました。その後は、住民の皆さんに対するサービスだとか、こういったことは当然付いてくることとなりますけれども、まずはこの航路を維持するというのを大前提にしながら経営をさせていただきたいと考えております。以上でございます。</p>
議長	<p>よろしいでしょうか。もしも、納得がいかない点がありましたら遠慮なくおっしゃってください。</p>
委員	<p>名前は瀬戸内シーラインですけども、船員の半分は島の人ですから。一緒にやっていますから大丈夫ですよ。</p>
委員	<p>1点だけ。「5年間の適切な運営」ということで、公設民営化に5年間という期限を切っておられる点が気になります。5年間のことだけを考えればいいのか、その先のことはいいのか。なんで5年間なのか。</p>
事務局	<p>公募に出す時にですね、今後永続的に経営が見通せるのか、どうなのかという点が一つありました。今回の公募に当たっては、まずは5年間、現行の便数とか料金とか、そういったものを維持していくという条件で5年間航路を確保していくということで公募をかけております。その次の5年間というのは、その時の社会情勢などを見ながら、どういった条件が適切なのか、航路が維持できる条件はどうかということを考えながら、新たな公募条件を設定して指定管理者の公募をかけていくことになると思います。</p>
委員	<p>1点参考に教えていただきたいのですが、応募者数は何社あったんでしょう。今更気にしても仕方がないことですが、応募者数と配点は、かなり比例しているというか、関連があることだと思いましたので。極端な話、2社から1社選ぶのと、10社から1社選ぶのでは、配点の意味が随分変わってくると思う。参考までに応募者数は何社あったのか。</p>

平成27年度 第1回江田島市公共交通協議会（平成27年5月13日）

事務局	応募者数は2社でございます。先に採点基準を公表した上で募集をかけておりまして、応募していただいたのが2社ということになっております。
(1) 報告事項 ② 平成26年度おれんじ号の運行実績について	
事務局	－資料2により説明－
議長	ただいま、事務局から説明がありました。 本件について、ご質問及びご意見などはございませんか。
委員	おれんじ号を運行して5年の歳月が経ったんですが、大分、市民の皆さんに浸透してきたと思うんですが、今一度、市の方から自治会など、地元の方へ利用するように再度お願いして欲しいと思うんです。私どもが運行している時に、第1便は前日の17時までに予約することになっているんですけども、夕方18時、19時でも受け付けしています。当日も早朝7時であっても関係なく受け付けております。業者としては一生懸命やっておりますので、大変申し訳ないんですけども、行政と自治会の方、もう一度よろしくお願いします。
議長	それでは周知の方をよろしくお願いします。
委員	最初から使う人が少ないというのは分かるんですが、沖美南部線で25年度から654人利用者が減少しています。その原因は調査されているのでしょうか。
事務局	実際のところ、はっきりとこれが原因というものは把握できていません。一つ言えるのは、これは延べ人数で示していますので、1年間で毎日乗られる方がいらっしゃったとして、その方が減りますと大きく減ってくるということでございます。色々と分析してみないといけないと思っているんですが、よく利用される方が転出されたことなどが原因ではないかと想像しているところです。詳しくは調べてみたいと思っております。
委員	以前、秋月の船便の件で、嘆願書を市長さんに持って行ったことがあるんです。聞いてみると、「どんどん利用者が減っている」ということで、嘆願書を持って行った者として、「どうなっているんだ」と秋月自治会に言いに行った。「嘆願書を出すことと、利用することとは別問題だ」ということであった。 おれんじ号も「作ってくれ、作ってくれ」ということであったが、失礼なことを言うようであるが、実際は言うほどの熱意がないのではないか。どうして乗らないのかということをよく把握しないと。自治会に「乗れよ、乗れよ」と言っても。今言われたように、よく乗られる方が減ったとか、確かに地域の方が減っているのだから、たぶんそうだろうとは思いますが、ですから、地域の方に「PRしろ」というのであれば、どうして減っているのかを把握しないと。最初は予約制がネックだと言っていたが、制度を緩和しても乗らない。地域それぞれの事情もあると思う。秋月の船便の時も、「乗れよ、乗れよ」と言っても、塾通いの子どもの帰りの便がないので、小用に出ていることが分かった。でも、秋月がなくなったら困るので嘆願書を書いた。そういったことがありますので、せっかくやっただいていてくれるんですから、理由を把握して欲しいと思います。

平成27年度 第1回江田島市公共交通協議会（平成27年5月13日）

委員	<p>運行事業者として、沖美南部線が少なくなっているということで、上り・下りとも第4便が減っているんです。船との連結に問題があって、上りの稼働率が24.9%で大体43分待つんです。下りが34分。ここで上りと下りについてですが、上りが三高棧橋着の便です。三高棧橋で43分待つんです。お客さんの選択で「じゃあ中町に行こう」となっても34分待ちと、利便性の問題でお客さんの選択肢がないんです。今度、秋に船のダイヤが変わる時に、ダイヤを見直すと思いますが、人口が減っているのも確かですが、お客さんは利便性で敬遠するかも知れない。私の方が「もっとPRを」と言ったのは、「乗ってください」というんじゃないんですが、「これをなんとか存続してください」という意味を込めたんです。というのも、今は大丈夫ですけども、これを止めてしまうと、何年か後に「また作りましょう」といった時には大変ですから。今、自分は大丈夫ですけども、5年後、10年後、さあ自分はどうなるのか。そのためにも地元の人も頑張ってください。あまりにも利便性を高めると逆効果になると思うんですが、ある程度のことはやってみた方がいいと思うんですね。できることはやってみて、無理なことは「それはダメだ」と伝えていけばいいと思います。</p>
議長	<p>では、また事情等ありましたら、また分析等に加えていただくようお願いします。他になければ、次の③に移ります。</p>
<p>(1) 報告事項 ③ 江田島市交通魅力アップ事業補助金について</p>	
事務局	<p>－資料3により説明－</p>
議長	<p>メニューが3つ揃えられており、できる限りこういったメニューを使いながら地域の交通を活性化していこうということでございます。これにつきまして、ご質問ございませんでしょうか。</p>
委員	<p>現時点で申し込みなどの具体的な動きはあるんですか。</p>
事務局	<p>この4月に要綱を定めまして、申請書の受付段階でございます。まだ、今のところは出ていませんけれども、説明の中では少し話をいただいています。</p>
委員	<p>事業者の方からも話があるのか。</p>
事務局	<p>問い合わせはまだありませんが、説明はしております。</p>
委員	<p>しっかり説明していただいて、上手く利用していただいて、活性化に繋がるようよろしくお願いします。</p>
議長	<p>他にいかがでしょうか。それでは以上を持ちまして報告事項は終了したいと思います。(2)の協議事項に入らせていただきます。</p>
<p>(2) 協議事項 ① 平成26年度決算及び監査報告</p>	
事務局	<p>－資料4の1頁を説明－</p>
事務局	<p>続いて資料4の2頁になりますけれども、本日欠席の濱中委員の方から「監査報告も事務局の方で」ということで承っておりますので、監査報告のご報告をさせていただきます。－資料4の2頁を読み上げる－</p>

平成27年度 第1回江田島市公共交通協議会（平成27年5月13日）

議 長	<p>平成26年度の決算と監査について、事務局から報告がありました。これについて、何かご質問がありますでしょうか。</p> <p>ご意見がなければ、公共交通協議会で承認いただいたものとして、取りまとめさせていただきます。</p> <p>それでは、引き続いて平成27年度事業計画・歳入歳出予算(案)について、事務局から説明をお願いします。</p>
(2) 協議事項 ② 平成27年度事業計画・歳入歳出予算(案)	
事務局	－資料5-1, 5-2により説明－
議 長	それではご説明のありました、平成27年度事業計画・歳入歳出予算(案)について、ご質問等ありましたら承りたいと思います。
委 員	<p>1頁目の「3陸上交通について」の表現と、「4海上交通について」の表現についてです。「3陸上交通について」の②では、「住民ニーズを適切に反映するとともに、海上交通との円滑な連携」という記載があるんですが、市民からの理解を公平に受けるということに関連してくるんですけども、海上交通の方にも「陸上交通との円滑な連携」ということを表現しておかないと、市民の側から見ると、バスと船では主役がどっちかということになって、勘違いをされますので、同じように表現して欲しい。</p>
事務局	相互に記載するということですね。
委 員	一つ例を出しますと、船が定刻に着いていない時にバスが定刻に出たら、お客さんからは「バスが早く出た」というクレームが来る。要するに正しいことをした方に「なんでバスが出るんだ」と苦情が来ますので。そもそもこの辺の表現がですね誤解を招くことになりかねませんので、よろしくをお願いします。
議 長	<p>ありがとうございます。では、事務局よろしくをお願いします。</p> <p>他に何かありませんか。</p>
委 員	<p>今の点で言えば、まさに仰られたとおりで、改正された法律で地域公共交通網形成計画を作るということは、船だとか、バスだとか、電車だとかをバラバラにするのではなくて、全部をひっくるめて上手く回るように持続性がある事業というのが本意なんですね。この協議会が7年前に始まったときも、西能美航路の再々編ということで始まっているんです。高速船も非常に苦しい。フェリーをやっているところはもっと苦しい。バスも苦しい。じゃあ、みんなで、高速船もフェリーもバスも一緒になって上手くできないかということを考えるのが今回の意味で、まさに今回国から求められているのも「そういう計画を立てなさい」ということだと思うんです。今年、こういう計画を立てるのに、1千万円使う訳ですが、たぶんシンクタンクにお願いすることもあると思うんですが、こういう観点から将来を見て、「連携計画」ですから。今は「おれんじ号はこう」「航路はこう」というふうにバラバラですが、実はおれんじ号の方はバスと船との接続によってもっと利用者も増えるし、逆に船の方も今の便数を維持するのは並大抵のことではないんです。バスと完全接続することによって、船の便数も、地元の皆さ</p>

平成27年度 第1回江田島市公共交通協議会（平成27年5月13日）

委員 (つづき)	人の利便性を損なわない範囲で減らして維持できるようにということを、ぜひ計画の方に取り入れてやっていただければと思います。
議長	<p>ありがとうございました。ただいまのご指摘も含めまして、陸上・海上両者の連携が大切だということでありましたので、事務局よろしくお願ひします。</p> <p>他に何かご質問ありますでしょうか。なければ、ただいまの平成27年度事業計画・歳入歳出予算(案)につきましては、この協議会です承されたということを取りまとめたいと思います。</p> <p>それでは、「③江田島市地域公共交通網形成計画の策定について」を事務局の方から説明をお願いします。</p>
(2) 協議事項 ③ 江田島市地域公共交通網形成計画の策定について	
事務局	－資料6により説明－
議長	<p>この江田島市地域公共交通網形成計画の策定が、今年度の大きな仕事になってこようかと思ひます。皆様方の協力を仰いで、この策定を完成させたいと考えております。これについて、何かご質問ございますでしょうか。あるいはご意見でも結構でございます。</p> <p>この計画策定については、国からの補助金も出ており、江田島市としては取りまとめたいということでございます。</p>
委員	<p>まったくの私見なんですけど、江田島市の庁舎が大柿に移りますよね。今の交通体系は、ここの能美庁舎を大体中心に、バスなんかでもイズミを大まかな核に考えておられると思うんですね。実際に乗ってみますと、庁舎が大柿に移った場合に、この能美とイズミの間、特に内回りですよ、ここら辺りを計画に載せて、やはり庁舎がある大柿を中心にした路線を考えるべきではないかと思ひます。実際、今、バスに乗っているんですが、これを反映させておかないと、この計画は作ったものの、庁舎は大柿になって、能美が支所になった場合に利用者の数がどうなのか。そこら辺りは頭の中に入れておくべきではないかと思ひます。まったく個人的な意見です。</p>
議長	<p>また、今後の協議会でも、そういったご意見を申し述べていただけたらと思ひます。事務局の方で何か。</p>
事務局	<p>先程の件ですが、実際に専門家を入れまして、まずは「江田島市の将来的な公共交通はどうあるべきか」というところを整理できればと考えております。これは陸も海も含めてですね、そうやって考える中で専門家の方に入っていて、実際に成り立つのかとか適切な運行を。陸であれば、どういうルートを通るのが一番いいのかという考え方を整理していただければというふうに考えております。人が多い地区をどう繋いでいくのかということとか、主要になる施設をどう繋ぐのかという考え方を整理した上で、色々な取組については、事業者さんに相談をしながら決めていくという手順にしたいと考えております。</p> <p>何にせよ、需要がどうなるのかを含めて、みんなで考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。</p>

平成27年度 第1回江田島市公共交通協議会（平成27年5月13日）

議 長	策定をする際には、この協議会での意見も反映していくということでございますね。
事務局	はい。
議 長	他に何かご意見等ありますでしょうか。 将来の江田島市の交通をどうしていくのかという方向を策定していくものですので、ぜひ皆様方のお知恵を出していただきたいと思っております。 他になければ、この策定についてはご了承いただいたものとして、取りまとめさせていただきます。
5 その他	
議 長	それでは、「5 その他」のところへ移ります。事務局の方で、何かありますでしょうか。
事務局	—広島・江田島船フェスタのPR—
議 長	その他、皆様方の方から、何かありますでしょうか。 それでは、長時間にわたってご意見をいただきありがとうございました。 これにて、本日の会議は終了します。
6 閉 会	